

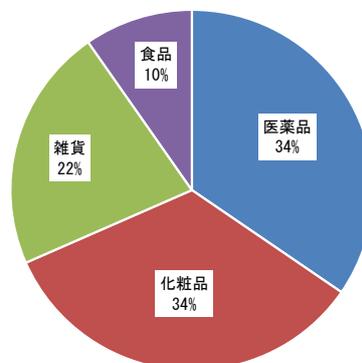
# 企業ニュース マツキヨココカラ&カンパニー

(東証プライム: 3088) <http://www.matsukiyococokara.com/> 作成者: 高見澤晶子

## ドラッグストア2社の経営統合により誕生

2021年10月、ココカラファインとの経営統合によりマツモトキヨシホールディングスから商号変更。国内店舗数は3,325店、マツモトキヨシはアジアでも41店舗を展開している(22.3期末時点)。22.3期のセグメント別売上高構成比はマツモトキヨシグループ74%、ココカラファイングループ25%、管理サポート1%。また同期の商品別売上高構成比は右図の通りで、利益率の高い医薬品や化粧品の販売を強みとする。2025年度までにグループ売上高1兆5,000億円、営業利益率7.0%の達成を目標に掲げ、統合シナジーの早期発現と最大化を目指すとして、統合後3年目をめどに営業利益で300億円規模の収益改善効果を見込む。

◇商品別売上高構成比(22.3期)



(出所) マツキヨココカラ&カンパニー資料より  
CAM作成

## 統合シナジーによる利益率の改善に期待

22.3期の連結業績は、売上高が7,300億円、前期比34%増、営業利益が414億円、同31%増(旧ココカラファインの連結業績は経営統合後の第3四半期より計上)。計画に対して売上高は140億円の未達だが、販管費の抑制と統合シナジーによる粗利益率の改善により、営業利益は計画を32億円上回った。統合シナジーは、主に仕入れ先の統合やプライベートブランドの統一・拡販といった面で効果が見られた。なお、経営統合に伴う特別利益106億円を計上したため、当期利益は大幅増となった。

23.3期の通期会社計画は、売上高が9,500億円、前期比30%増、営業利益が530億円、同28%増。下期は前年の統合効果でハードルが高いとみられるが、販売回復と統合シナジーによる収益改善効果により、売上高で前年同期比8%増、営業利益で同21%増を目指す点は好印象。国内出店計画は新規出店150店、閉店50店とし、期末店舗数は3,425店を見込む。既存店売上高は前期比1.5%増(上期は前年同期比1.5%減、下期は同4.4%増)を想定。4月は前年同月比3.8%減と振るわなかったが、計画には織り込まれている。なお、会社は第2四半期から徐々にインバウンド需要が回復するとみている。

## [株価動向・投資判断]

さらなる統合シナジーの発現により、一段の利益率改善が期待できよう。

<3088 マツキヨココ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
21.3	544,737( - )	31,582( - )	34,140( - )	21,602( - )	210.5	70.00
22.3	729,969( 34)	41,407( 31)	44,881( 31)	34,588( 60)	283.2	70.00
23.3 予	950,000( 30)	53,000( 28)	57,000( 27)	35,000( 1)	286.5	80.00

(注) 22.3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用。21.3期の業績は遡及適用した数値のため、伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2022/6/10)	5,090円
年初来高値(高値日)	5,200円(22/6/9)
同 安値(安値日)	3,735円(22/1/20)
予想P E R(23.3予)	17.8倍
1株株主資本(PBR算出用)	3,285.0円
P B R	1.55倍
予想配当利回り	1.57%
(1株当たり配当金年80.00円)	
R O E(22.3)	9.7%
発行済み株式数	14,297万株